

♪ 2024年度 **poco a poco** ♪

Nr. 11 2024年10月7日(月)

文責:プファイル・辰巳

学校祭に向けて..

4連休はゆっくり休めたでしょうか。今週末はいよいよ学校祭ですから、体調を整えて、元気に1週間を過ごしたいものですね。

舞台練習を時々覗いていますが、練習を重ねるごとにみなさんの演技にも磨きがかかってきました。本番が楽しみです。失敗を恐れず、セリフを言う時も、歌をうたう時も、思い切って堂々と声を出してください。



音楽こぼれ話 <軽々しく「オンチ」と言うなかれ!>

前は「きれいな声」という言葉は、言わないように心がけていることを書きました。もう一つ、私が言わないようにしている言葉が「オンチ」という言葉です。漢字で書くと「音痴」となります。漢字はもっと使いたくない文字です。日常生活の中で、「私オンチだから。」というセリフをしばしば耳にしますが、そんなに簡単に「音痴」なんて言わないで欲しいな、と私は思っています。

平凡社の音楽大辞典の定義によりますと、「音痴とは脳の先天的音楽機能不全」となります。これは私たちが日常的につい使ってしまう「オンチ」とは、意味合いが全く異なるのではないのでしょうか。カラオケなどで音程やリズムが少々外れてしまうのはよくあること。これは「音痴」なのではなく、ただ「調子はずれ」になってしまった、というだけのことです。

「調子はずれ」になってしまう原因は、大きく分けて二つ考えられます。「ぽこあぽこ」でこれまでに書いてきたことと重なりますが、まずは「音楽を正しく聞き取る」ことができている時です。メロディの動きやリズムを正確に聞き取ることは、もちろん1回聞いたぐらいではできません。でも、繰り返し聞いているうちに、覚えられるものです。

つまりは、耳の訓練をすれば、速い遅いはあっても、たいていの人には可能になります。音楽家を目指す人たちも、「聴音」といって、耳で聞いたメロディやリズム、和音も含めて、楽譜に書き起こす訓練をします。(私は大の苦手で、大学時代苦勞しました。とほほ…。訓練が足りてなかったのです。)

「調子はずれ」になる第2の原因は、正しく音楽が聞き取れていても、それを再現する技術を持たない時です。前回のお話で、声帯も筋肉だから鍛えることができると書きました。1、2度聞いただけで難しい曲が歌えるようになるなら、苦勞はありません。みんなオペラ歌手になれてしまいます。そうはいかないので、声楽家は発声練習をしたり、様々な曲に挑戦したりしながら、技術を磨いていくわけです。

生まれたばかりの赤ちゃんがオギャーと泣く声は、ピアノの音ならばファ・ソ・ラの辺りの2~3音の間を行き来しているのだそうです。幼稚園から小学校へ進むに連れ、語彙数と同じように音域も広がって、1オクターブ以上の音が出せるようになります。少年少女合唱団などに入団して訓練を積み、さらに高音域まで出せるようになります。ウィーン少年合唱団の歌声が「天使の歌声」と呼ばれるのも頷けます。

中学生になり思春期を迎えると、身体の成長に伴って声帯も成長し、ホルモンの関係もあり、男子も女子も変声期を迎えます。男子ほど顕著ではないので見過ごされがちですが、女子もこの時期、声は少し低くなります。男子は一気に1オクターブほど下がり、変声期前の頭声のような声ではなく、胸声で歌うことを余儀なくされるそうです。(女性には分からない部分です。) この時期は、男子も女子も無理な発声はせず、忍耐してください。

数か月、あるいは数年で声は落ち着きを取り戻し、男子は胸に響く分厚い声から頭に響かせる裏声まで、実に幅広い声を出せるようになります。この時期、思うような声が出せないのは、自然の摂理なのです。

ここまで読んでいただくと、歌唱するときに少々調子はずれになるのは、オンチだからというわけではなく、訓練次第で修正可能なことだということが、ご理解いただけたでしょうか。これからは「私はオンチですから」なんて言わずに、まずは大きく息を吸い込んで、思い切っているんな曲を歌ってみてください。

Übung macht den Meister!

(練習すればマイスターになれる!)

